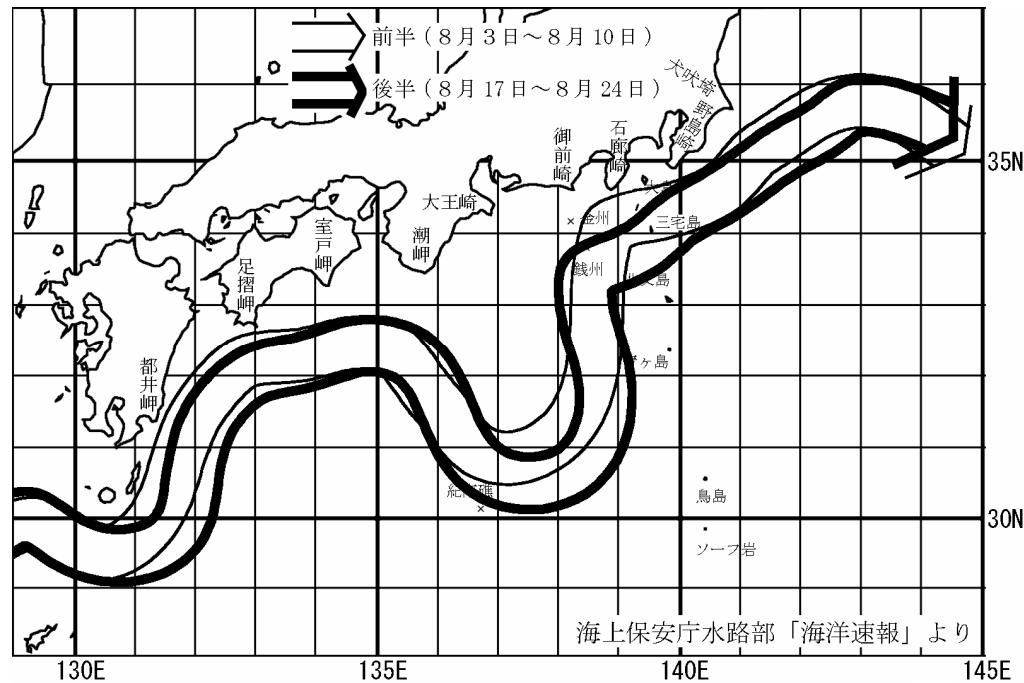


# 漁海況月報

平成 16 年 8 月 1 日

No. 8 ~8月31日

静岡県水産試験場  
(電話 054 627 4815)  
静岡県水産試験場伊豆分場  
(電話 0558 22 0835)



## 【黒潮流路】

黒潮は、先月末からA型となった。8月を通じて、黒潮は石廊崎沖の北緯 34°10' ~20' 付近まで北上したのち東に向きを変え、神津島付近を通り房総半島に接岸して北東に流れていた。

上旬に黒潮が石廊崎に接岸したため、相模湾、駿河湾には暖水が波及したが、中旬以降暖水波及は収まる傾向であった。

## 【県下沿岸域】

定地水温は、相模湾側では 22~26 台、駿河湾東部では 25~28 台、駿河湾西部では 25~28 台で経過した。伊東や地頭方では、下旬に平年並み以下の水温を観測したが、その他の測点では平年並~高めであった。

## 【竿釣近海カツオ】

8月の県内主要5港（沼津、清水、焼津、小川、御前崎）における近海カツオの水揚量は48トンで前年同期の69%であった。魚価は198円/kgで、前年同期の106%と若干高値であった。

中型竿釣船の記録（QRY）及び御前崎市場での調査によれば、8月の漁況はおおむね以下のとおり推移した。

上半期では 36°~40°N、143°~149°E に、下半期は 38°~41°N、143°~146°E で漁場が形成され、極小、小、大中、特大、チンカツオを漁獲した。

静岡県近海では、主に沿岸竿釣り船が駿河湾内から遠州灘において操業し、40~70cm のカツオを漁獲した。

竿釣近海カツオ水揚量 (県内主要5港)

期 間	水揚量 (トン)	水揚 隻数	水揚量 / 隻 (トン)	平均単価 (円/kg)
16年8月上旬	24	7	3.4	183
中 旬	13	7	1.8	218
下 旬	12	3	3.9	209
16年 8月計	48	17	2.8	198
15年 8月計	70	19	3.7	187
14年 8月計	117	31	5.6	496

## 【まき網】

小川港では、マイワシは3.1トン水揚され、平年同期（過去5か年平均：63.2トン）の5%と低調であった。カタクチイワシは水揚されなかった。

沼津港では、マイワシは101.0トン水揚され、平年同期（91.0トン）の111%とやや好調であった。カタクチイワシは水揚されなかった。

静浦港では、マイワシは5.1トン水揚され、平年同期（9.0トン）の57%と低調であった。カタクチイワシは216.7トン水揚され、平年同期（145.8トン）の149%と好調であった。

伊東港では、マイワシは水揚されなかった。カタクチイワシは54.9トン水揚された。

2004年8月

定地水温の旬平均値 ( )

(下段は偏差)

期 間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上 旬	25.6 0.7	25.7 2.4	25.9 2.2	27.3 2.0	27.1 1.9	27.2 1.8	26.9 1.3
中 旬	25.5 0.3	24.3 0.2	24.2 0.0	27.5 1.8	27.4 1.7	27.3 1.7	27.1 1.2
下 旬	24.3 0.7	24.5 0.2	25.0 0.5	26.7 0.7	26.3 0.2	26.5 0.8	25.4 0.6
月平均	25.1 0.1	24.8 0.9	25.0 0.8	27.1 1.5	27.0 1.3	27.0 1.4	26.5 0.6

**[サバ棒受網]**

小川港に水揚げされたサバ類は前月の水揚げ量(751トン)の約8割の632トンで、すべてゴマサバであった。漁場は新島から利島周辺海域を中心に形成され、1隻当りの漁獲量は19.2トンであった。漁獲物は2004年級群が主体であったために、25cm以下のものがほとんどであった。1kg当たりの平均単価は54円と安かった。

小川港 サバ類(棒受網漁業)水揚量

期 間	水揚量 (トン)	日数	延隻数	1隻当り (トン)	漁 場
平成16年 上旬	373	6	23	16.2	三宅、新島、利島
8月 中旬	-	-	-	-	-
下旬	259	5	10	25.9	新島、利島
計	632	11	33	19.2	- - - - -
平成 15 年 8 月	1,004	9	43	23.4	三宅、高瀬、銭洲、利島
平成 14 年 8 月	260	6	26	10.0	三宅、高瀬、銭洲、利島

**[シラス船曳網]**

1日1か統当りの水揚量は、駿河湾で192kg、遠州灘で112kgだった。主要6港平均では151kgと前年同期(263kg)の57%、平年同期(過去5か年平均:314kg)の48%であった。8月の総水揚量は218.2トンと、前年同期(529.6トン)の41%、平年同期(640.1トン)の34%に当り、最近20年間で最低の水準であった。平均単価は1,224円/kgと前月より上回り、平年同期(595円/kg)をも大きく上回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁 港	水揚量 (トン)	日数	延統数	平均漁獲量 (kg/統/日)	平均単価 (円/kg)
新 居	9.8	7	94	104	1,333
舞 阪	30.8	7	309	100	1,126
福 田	27.2	8	204	133	1,168
御前崎	16.1	13	145	111	1,305
吉 田	67.4	15	367	184	1,133
静 岡	66.9	14	331	202	1,349
平成 16 年 8 月計	218.2	-	1,450	(平均)151	(平均)1,224
平成 15 年 8 月計	529.6	-	2,015	263	528
平成 14 年 8 月計	324.1	-	1,790	181	947

**[定置網]**

平成16年8月、伊豆半島東岸大型定置網8か統(伊豆山、古網、赤石、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)における水揚量は502トンであった。1漁場当たり水揚量62.7トンは、前年30.4トンの2.1倍、平年値(昭和57~平成15年平均値)43.9トンの1.4倍であった。

魚種別にみると、サバ類280トン(前年の1.2倍、平年の2.0倍) マアジ102トン(前年の3.0倍、平年の5.1倍) さばっこ28.4トン(前年の56.7倍、平年の1.8倍) シイラ25.9トン(前年の1.5倍、平年の4.0倍) マルソウダ24.8トン(前年の52%、平年の1.2倍)の順に多かった。

サバ類は赤石及び北川を中心としてゴマサバ主体で入網し、ゴマサバの尾叉長の中心は21~23cm及び31~34cmであった。サバ類は昨年同様に4月以降に水揚量が多く、4~8月の合計は981トンとなり、水揚量の多かった昨年(1,002トン)と同等となった。マアジは谷津を中心に入網し、尾叉長のモードは14~15cm及び18cmで、昭和57年以降で最も水揚量が多かった。さばっこは川奈を中心にゴマサバ主体で入網し、尾叉長の中心は18~23cmであった。さばっこは5月以降、7月を除いて毎月20トン以上のまとまった水揚となった。シイラは川奈及び富戸を中心に入網し、尾叉長の範囲は77~116cmであった。マルソウダは伊豆山及び北川を中心に入網し、尾叉長のモードは24~26cmであった。

漁場別水揚量は、サバ類の漁獲が多かった赤石(175トン)、北川(84.4トン)、サバ類及びさばっこの漁獲が多かった川奈(71.6トン)の順であった。

**[調査船の動向]**

- 富士丸  
~8月1日 東沖ピンナガ調査(1日間)
- 駿河丸  
8月2日 駿河湾内にてCTDテスト(1日間)
- 8月3~4日 地先定線観測(駿河湾・遠州灘・伊豆)(2日間)
- 8月5~6日 駿河湾内にてサクラエビIKMT調査及び産卵調査(2日間)
- 8月9~10日 地先定線観測(遠州灘)(2日間)
- 8月16~17日 三宅島沖にてサバ漁場環境調査(2日間)
- 8月18日 駿河湾内にてサクラエビ産卵調査(1日間)
- 8月23~24日 久能沖にてトラフグ試験操業(2日)